

関所番士の事績を読む 解答

史料 拾遺【足立家No.171(部分)】

【表紙】

「天保九年極月綴

拾遺 全

足立十右衛門 一

予其元ハ、武州式郷半領茂田井村名主和井田平右衛門
三男幼名重次郎、拾三歳之節母方叔母之続を以、足立
家江養子ニ成、天明二寅年四月引越、同年七月十三日
養父重右衛門俄之暑氣当、大病ニ而不幸、法名窓円ト云、
時二三拾七歳也、依而十五日内々葬送、家督不_レ定、依_レ之
御支配伊奈半左衛門殿江養子願差出、増_レ年十五歳ニして
無_レ程願之通相濟、然処重次郎若年ニ而御番難_レ相勤、同
役山田善藏次男定吉、当分御番代願差出、是又早
速相濟、山田定吉出番、尤同人年中之入目差出、翌天明
三卯年六月より祖父重右衛門大病ニ而七月廿日不幸、法
名樂寿法子、時二七拾三歳也、養父重右衛門父ニ而隱居也、
同年七月七日浅間山焼出し、関東筋江砂降凡式・三寸也、
其筋近郷乱亡、人馬共多死ス、并近国不作ニ而、翌天明四辰
春夏米穀高直、同年辰二月重次郎見習之願差出、拾七
歳之積、是亦願之通被_レ仰_レ付_レ出番一也、同六年午七月関東
筋川々洪水、都而川除堤物越、往古より稀之大水、家財・
米穀流失、秋過より追々米・麦高直、米兩二五斗四・五升也、

同年午十月重次郎本役御番入、并番代山田定吉退役
願伊奈家江差出候処、願之通早速相濟、定吉儀者、江戸
小石川伝通院前仲町丸屋利右衛門養子ニ行、依而是迄
五ヶ年之間番代之謝礼金子・端物等遣_レ之、定吉より
も大小拵祝義ニ来、同七未年三月水難拝借金三兩宛
被_レ仰付一、但年賦返納也、同年春夏世上一統飢饉、米尅兩
二老斗八・九升、白米百文二三合、から麦兩二五斗三・四升、
地酒尅合五拾売、其外諸色等准_レ之、粕・ふすま餅・摘草等
ニ而飢ヲ凌、去_レ共人馬之死亡有_レ之由、前代未聞之事共也、
子孫爰ニ心を用、平年ニ可_レ心懸一候、同六月下旬より少々下
落之由、同未年秋過頃、小岩市川御関所番川々御普請御手伝
之大名衆江申込候儀有_レ之、松平相模守殿より伊奈家江御達
成、御関所番不_レ殘御支配江御呼出之節、跡御番被仰渡、山
田善藏兩人ニ而罷越勤番仕、早速相濟各帰郷、依而我々も三
日目ニ帰宅、賄ハ中根嘉内・田中幾右衛門・高柳又兵衛・篠
原三五郎より出_レ之、同寛政四子年正月式郷半領小向村
名主斎藤新左衛門妹妻ニ賞請、同年二月御支配伊奈右近將
監殿塾居、御家督伊奈平十郎殿嫡子小三郎殿江新規
千石被_レ下候之由、是より久世丹後守殿御支配、同七卯年小
金原御鹿狩御用掛御役人、前年より通行、三月五日
御成前昼夜通行多、睨と者不_レ寐、実難渋、船橋出来、

同九年巳六月御支配丹波守殿御小性(姓)組番頭ニ御昇進、

依中川飛驒守殿御支配、同十一年未九月廿九日妻とせ、長病

ニ而不幸、法名貞艶ト云、時廿六歳也、此頃祖父より一統之

法名・院号・居士号受_レ之、尤寺江相当之仕向出_レ之、同年未

十二月式郷半領戸ヶ崎村名主加藤伊兵衛娘後妻ニ貫請、同翌

申年六月より七月迄当御関所江勤番被_レ仰付_一、御手当並道

中往返賃錢等被_レ下、金町より出役致候、首尾能勤番濟

帰郷、同年未十一月元御関所番長山勘平明跡江被_レ仰付_一、

当所江家内共引越、下旬より出勤、尤家作金并引越金

被_レ下、家作坪廿坪、井戸迄御入用被_レ下、都合金四拾兩

内被_レ下、子孫爰克々□(可_ク)ニ心得_一候、翌享和元酉年深広

寺勤役中仮檀家と成ル、金町光増寺より頼之証文来、有_レ故

而自分江証文預置、前年寛政十二申年十二月八日夜

仮住居ニ而類焼、隣家久八と申者火元也、折節泊番ニ而

家内人少丸焼、同十四日拝借金三兩御渡被_レ下、年賦返

納也、文化九申年七月二日夜領中狐塚村堤土手切水難、

文政二卯年正月伊勢大々講ニ而参_一宮、大和廻り京・大坂

所々参詣、御支配江病氣之趣申立、実ニ不_レ容易_一事ニ而、子

孫必可_レ為_レ無用_一、可_レ恐事也、同三年辰正月より身上向_一

式金四郎江讓渡、何ニも不_レ構、同五年二月老母痰症

ニ而二・三日煩、廿九日不幸、法名松寿ト云、時七拾六歳也、

同六年未六月廿日嶋川村堤土手切水難、床際迄水押上候、

同七年申八月十七日中里村塚樋堤切込水難、床上二尺八寸

水押上、困窮打続、同文政八年九月より痰症ニ而相煩大病、

然共追々快、十一月より出勤、同十年亥二月より隱宅普請初、

同六月成就致引移候、此以前井上河内守殿・小笠原殿

并阿部飛驒守殿・松平越中守殿、役替ニ而少潤ト成、同天保

四巳年夏秋作トモ世上凶作、八月より米穀追々高直、別而奥

羽・越後者分而極窮、是迄四ヶ年之違作之由、翌未年

春夏米金壹兩ニ付三斗四・五升、割麦同直段、小麦・小豆・

酒・水油・諸色ニ至迄准_レ之、小売白米百文ニ付四合五勺、

割麦同直段、右ニ付人氣悪く、去冬より幸手・千住・加須・

騒騎_ヲ西辺物持を乱妨致、既ニ当宿も危候へ共、追々救米

等差出無_レ難、同六月十日頃より米穀少ツ_レ直段下ル、当未

年関東筋麦作四分通、米者八分通之収納也、夫而已ニ非ス、

巳年より痢病・傷寒流行ニ而諸国ニ而人多死ス、且去午年

八月より痢疾相煩、追々全快、十一月朔日より出勤、去ル天

明六年年本役被_レ仰付_一、以来当天保六未年迄五十年相勤候、

見習ニケ年都合五拾ニケ年也、

(後略)

* 是「平出」「闕字」

平出(へいしゅつ) 高貴な人の名前や称号を書く際に、敬意を表し改行し、行の初めに書き記すこと。

闕字(けつじ) 高貴な人の名前や称号を書く際に、敬意を表し、一から二文字程度空けること。